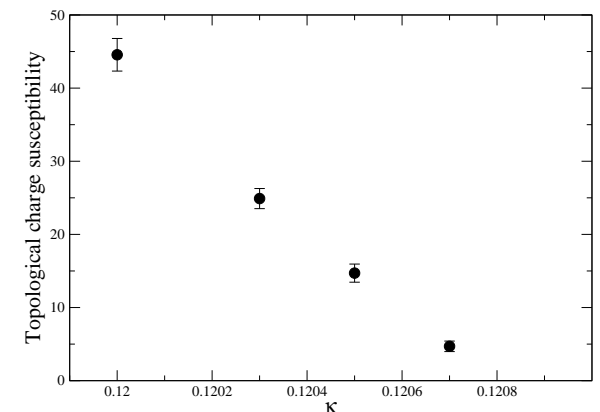
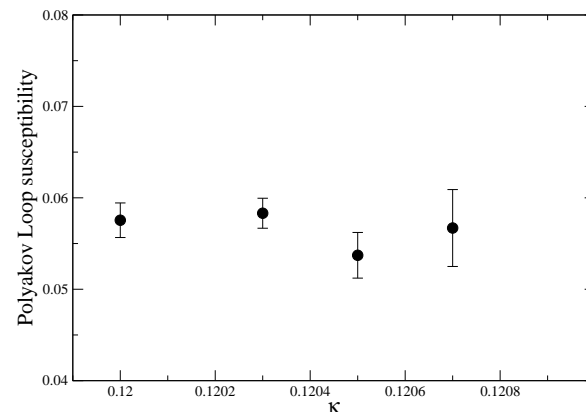
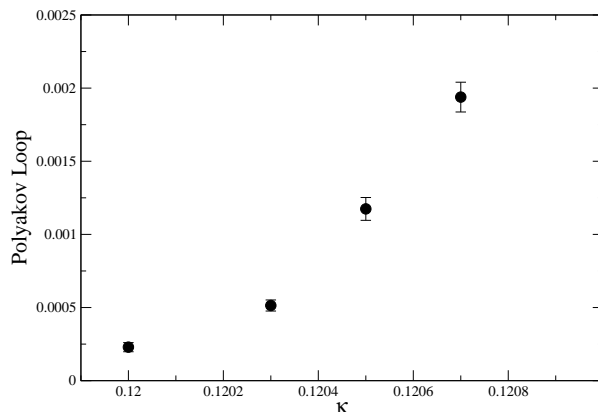


● scknzw グループはこれまで DESY と ITEP のグループらと、DIK 共同研究組織として、2フレーバークォークを動的に扱う有限温度格子 QCD の数値シミュレーション研究を行い、カイラル対称性の自発的破れと回復、カラー閉じ込め・非閉じ込め相転移の研究を行ってきたが、本研究からストレンジクォークの寄与も加えた**3フレーバード動的クォークの有限温度格子 QCD 数値シミュレーション**を開始した。

● これまでの主な研究成果： $N_t = 12$  における Polyakov ループ (左) と Polyakov ループサセプタビリティ (中) とトポロジカル電荷サセプタビリティ (右)



● 相転移点は  $\kappa = 0.1205$  付近に存在すると推測されるが、この付近のデータの統計をさらに上げる必要がある (現在進行中)。